

豊かに学び続け 未来を拓く力をはぐくむ ために ～日々の授業をより魅力あるものに～

現行の学習指導要領では、急速に変化し予測困難な社会を生き抜くために、子どもたちが「未来の創り手」となる力をはぐくむことが重視されています。

こうした社会の背景を踏まえ、中丹教育局では『豊かに学び続け 未来を拓く力をはぐくむ中丹の教育』をコンセプトに、「人生100年時代、主体的に楽しんで学び、目標に向かって粘り強く努力し、新しい時代を創造するような人に育ててほしい」という願いの実現に向け、「魅力ある学校づくり」を取組の重点として教育活動の推進に取り組んでいます。

「魅力ある学校づくり」を進めていく上で大切にしたいことの一つは、「子どもたちが学校生活の中で最も多くの時間を過ごす授業を魅力あるものにする。」ということです。そのために、授業では、新しいことが分かる喜びや難しいことができるようになる楽しさを味わわせるとともに、学んだことが生活の場面でも活用でき、生きて働く「確かな知識」となり、自分の未来を切り拓くことにつながることを、子どもたちに伝えたいものです。また、生徒指導提要で示されているように、「自分が大切にされている」「心の居場所になっている」「大切な意味のある場となっている」と実感できる学級づくりが求められています。そのことは「授業の中でも」大切だと考えています。



生徒指導提要改訂のポイント
「中丹のまなび」P.3～4

つまり、授業を魅力あるものにするためには、「学習指導」と「生徒指導」の2つの視点で教師が子どもたちに指導や支援を行うことが大切ではないかということです。

次期学習指導要領の改訂に向けて、中央教育審議会では、次のように課題を整理しています。

中央教育審議会「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」（令和6年12月25日）
「顕在化している課題」

- ◇子どもたちが学ぶ意義を十分に見いだせず、主体的に学びに向かうことができていない。
- ◇多様性を包摂し、子どもたち一人一人の可能性を開花させる教育の実現が喫緊の課題である。
- ◇子どもたちが習得した知識を現実の事象と関連付けて理解すること、概念としての知識の習得や深い意味理解をすること、自分の考えを持ち根拠を持って明確に説明すること、自律的に学ぶ自信がある子どもが少ないことなどが課題である。
- ◇デジタル学習基盤の効果的活用は、育成すべき資質・能力が十分に意識されず子どもたちの「深い学び」につながっていない事例がある。

これらの課題を解決するためには、子どもの状況を適切に把握し、指導に生かすことが大切です。例えば、学習指導の視点で見れば、教師が指導内容を深く理解することで、子どもたちの学習へのつまずきをよりの確に把握することができます。生徒指導の視点で見れば、学びを支援したり、個別の対応や手立てを講じたりすることができます。

例として、グループ学習時の机間指導における指導のポイントについて考えてみると、次のようになります。

学習指導の視点で

子どもたちの課題のつまずきを把握したり、一人一人の考え方の筋道や手順を確認したりして、全体指導での共有につなげる。

子どもたちは、課題のどのようなところでつまずいているかな？

考え方の筋道や手順をどのように進めているかな。他と違う考え方をしている子はいるかな？

生徒指導の視点で

子どもたち一人一人が自分の考えを自由に述べられる雰囲気がつくられているか、この子どもはどのような支援を必要としているか、等を観察する。

一人一人が意見を言い合っているかな、分からないことを否定せず自然に助け合っているかな？

自分で考えようとしているかな。課題に向かって集中して取り組んでいるかな？

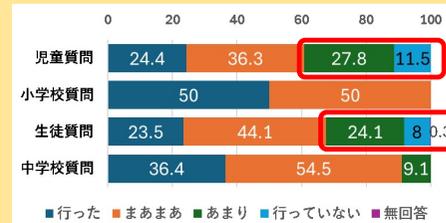
教師の意図を明確にした授業づくりのために

それぞれの学校では、これまでから授業を魅力あるものにするため、単元を通して付けたい力を意識した計画を立て、授業の中で発問や学習形態などに様々な工夫をして授業実践をされていると思います。

その上で、さらに課題の改善に向けて意識したいことは、「教師の意図*」が子どもたちに正しく伝わっているかということです。下の参考資料に見られるように、教師が指導事項に対して「このような活動を行うような授業を行った」と思っている、子どもたちは「そのような活動を行った」という実感が持てていない、ということがあるのではないのでしょうか。授業の中で、「本時のねらいを全ての子どもたちに達成してほしい」「この活動ではこのような力を付けてほしい」「導入で確認したことを生かして本時のねらいに迫ってほしい」など、その授業における教師の意図が明確か、またその意図が子どもたちの学習活動につながっているか、自分の授業を振り返ってみましょう。その際、「学習指導」と「生徒指導」の2つの視点で指導や支援を考えてみましょう。（具体的な視点は11ページに記載しています。）学習形態の設定や使用する教材などどのようなねらいや効果があるのか意識して授業づくりをしましょう。

参考資料

令和7年度全国学力・学習状況調査 ☆児童（生徒）質問項目（58）／★学校質問項目（47）
☆ 算数（数学）の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか。
★ 調査対象学年の児童（生徒）に対する算数（数学）の授業において、前年度までに、問題の答えを求めさせるだけではなく、どのように考え、その答えになったのかななどについて、児童（生徒）に筋道を立てて説明させるような授業を行いましたか。



児童（生徒）質問項目(58)と学校質問項目(47)との比較（中丹）



児童（生徒）質問項目(58)と算数・数学の正答率とのクロス集計（中丹）

児童（生徒）質問調査では、質問に対し否定的回答の割合が高いのに比べ（グラフの赤枠）、学校質問調査では否定的回答の割合が低い結果となりました。

肯定的回答をしている児童生徒ほど、算数（数学）の正答率が高い傾向が見られました。

教師は子どもたちに「こんな力を付けてほしい」と思っているけれど、その思いが子どもたちに伝わっているのでしょうか？

グループワークで一部の子どもしか説明していない場合は、全ての子どもが「説明する活動をした」と感じていないかもしれませんね。

子どもたちが「今日こんなことを学んだ」という実感が、学習の達成感や次に学ぶ意欲につながっているのかもしれないですね。

思考力や表現力の育成につなげようとする教師の意図が子どもたちに伝わることで、児童生徒が学ぶ意義を実感して授業に臨み、学力に影響を与えるのかもしれないですね。

☆ 中丹プロジェクト21（以下P21）では、特別支援教育、数学科、外国語科の各プロジェクトにおいて授業改善の実践を進めています。次ページ以降で研究員の取組や、管内の学校の実践を紹介しています。教科に関わらず大切な視点をたくさん含んでいますので、参考にしてください。また、各校でも多くの先生方がよい実践をされていますので、互いに学び合う姿勢を大切にしましょう。

* 教師の意図…ここでは教師がどのような子どもを育てたいのか、どのような学びを実現したいのか、なぜこの活動を行うのか、といった理念や価値、願い、思いの総称（授業観・指導観・ねらい等を包含したもの）と定義します。